2　本土決戦の為の野戦軍建設の経緯と軍政の実相

本土作戦準備強化の為、当時速急に解決を要すべき問題が少なくなかつた点、その中でも、従来の外征軍の増強体たる内地の所謂補充部隊と、本土決戦の為の新しい作戦軍との関係　を如何に節調し、必勝の態勢を確立するやは、就中重視さるべき命題であつた。本件については、一月二十二日、従来の東（中・西）部軍の各司令部を廃し、作戦軍たる方面軍司令部と軍事行政を主任務とする軍管区司令部を設置する事により解決された。

即ち、従来の内地各軍司令官は、徴兵召募・動員補充・管内警衛・治安維持・作戦準備等、其任務が複雑多岐で、その結果、軍政に関しては陸軍大臣、作戦計画・動員に関しては参謀総長、教育に関しては教育総監　の　区処を受けて居つたのであつて、其の任務が斯かく複雑多岐であつた為、司令部及隷下軍隊共にその運用並努力に於て、見角放漫に流れ易く、特に、直接の作戦準備の如きは内地の特性に鑑み徹

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

困難な状態に陥つた。

元来、内地軍司令官の任務には、純作戦的部面と一般行政に緊密なる関係を有する軍事行政部門とがあつたので、為之、内地各軍の統帥組織に根本的改訂を加え、内地軍司令部を、作戦軍司令部と軍管区司令部とに分離し、作戦軍司令官（方面軍司令官又は軍司令官）をして作戦準備に専念せしめ、行政と緊密な関連を有する軍事行政に関しては、軍管区司令官をして之に当らしめる如くし、作戦時に於ては、作戦軍の指揮を除き、其の行動をして神速軽快にする一方、軍を中核とする軍民一体的国内態勢の確立に遺憾なからしめる如くせられたのである。

然し乍ら、更に又、内地に於ける作戦は、一般行政と密なる関連を有し、特に作戦準備は、一般行政機関及民と遊離して之を遂行し得ない性質のものであつたので、方面軍（軍）司令部と軍管区司令部との連絡を密ならしめる為、司令官は、彼此の間二位一体とし、遂行上、直接接触せしめることと言れた。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一、内地の防衛は、昭和十六年九月十二日防衛総軍の編成が下令せられ、防衛総司令官は、第二総軍（昭和十八年二月迄は北部軍、昭和十九年三月迄は北方軍）東部軍、中部軍、西部軍及第六航空軍（昭和十九年十二月二十五日以降）を隷下とし、又、第三十六軍（昭和十九年十一月一日以降）第一航空軍（昭和十九年三月二十七日以降）及第十（東部本州）第十一（中部本州）第十二（西部本州）各飛行師団を指揮し、北海道（北方軍又は第五方面軍）関東以北の本州及伊豆諸島（東部軍）、本州中部及国国（中部軍）、西部本州及九州（西部軍）の防衛を担任したが、大本営は、本土長期の無通なる増強に伴い、昭和二十年二月六日、従来の東部中部、西部軍司令部を廃し、新に、作戦に専任すべき五大の方面軍、即ち、第十一（東北）第十二（関東）第十三（東海）第十五（近畿、中国、四国）第十六（九州）の各方面軍を設置し、更に続いて、四月八日、本土に、第一、第二及航空各総軍司令部を新設すると共に、防衛総司令部を廃止した。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

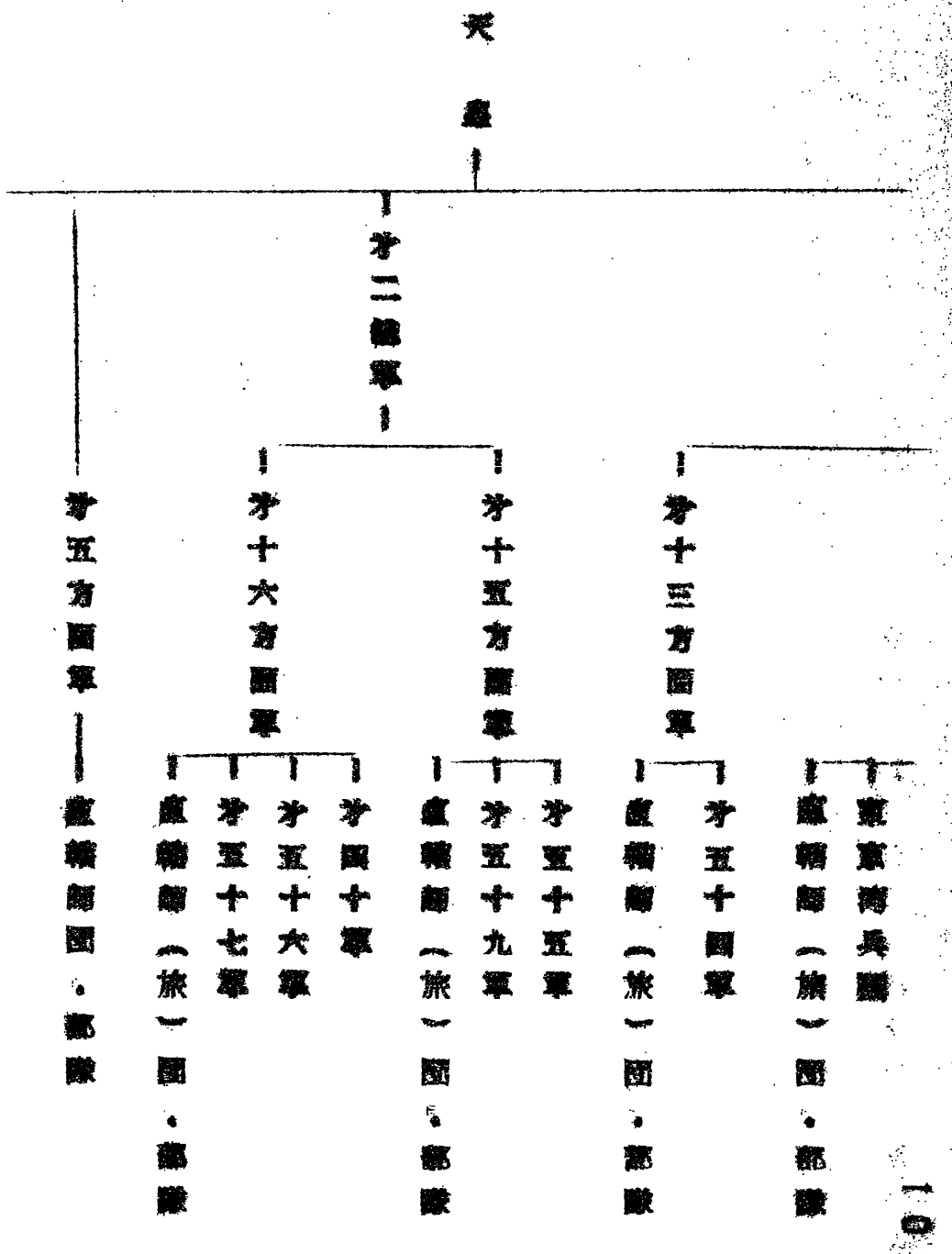
かくて第一総軍・第二総軍・航空総軍の三総軍司令部は、天皇直属として、何れも、明和二十年四月八日、その編成序列を下令され、全十五個編成を発令し、第一総軍司令部及航空総軍司令部は東京の市谷台上に、又、第二総軍司令部は広島部の陸兵管区に位置し、夫々本土決戦に応ずる統帥を発動した。

内地陸軍戦軍組織概見表

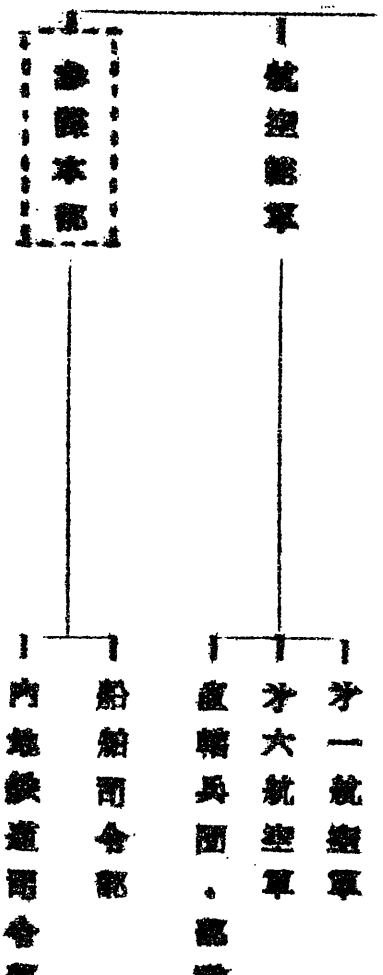
- 第一総軍
  - 第十一方面軍
    - 第五十八軍
    - 直轄師（旅）団・部隊
    - 第三十六軍
    - 第五十一軍
    - 第五十二軍
    - 第五十五軍
    - 東京防衛軍
  - 第十二方面軍

0017

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp



第一総軍（司令官　杉山元　元帥）は、第十一方面軍（東北）、第十二方面軍（関東）、第十三方面軍（東海）を統率し、鈴鹿以東の東部日本の作戦を担任し、第二総軍（司令官　畑俊六元帥）は、第十五方面軍（近畿、中国、四国）第十六方面軍（九州）を統率し、西部日本の作戦に当った。此の他、第五方面軍（司令官　樋口季一郎中将）は、従来通り千島、樺太と共に北海道の防衛作戦を担任し、又、航空総軍（司令官　河辺正三大将）は、第一航空軍（東部日本）、第六航空軍（西部日本）、第十一、第五十二、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

才五十五師団（何れも教育師団）を統率し、本土決戦に関し陸軍
統帥作戦の遂行に当ることとなつた。
尚、内地には、此の他、参謀本部直轄として内地鉄道司令部（司令官
三原修二少将、東京）及船舶司令部（司令官　佐伯文郎中将、広島）
がもつた。
総軍、方面軍及軍（以後軍）の組織概見表及師団・混成旅団等の編合
配置の概要は、次の如くである。

注、以下の表で、人名は当該兵団の指揮官を示し、又、地名は、
司令部所在地を示す。尚◎は総軍直轄、○部は方面軍直轄
である。

才一総軍

◎才十一方面軍（藤江恵輔大将）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

○第五十軍
第百五十七師團　（星野利元中將　青森）
第三百八師團　（宮下健一郎中將　三本木）
獨立混成第九十五旅團　（朝野寅四郎中將　野辺地）
○第七十二師團　（石黒貞治少將　能代）
○第百四十二師團　（千葉熊治中將　福島）
○第二百二十二師團　（寺垣忠雄中將　吉岡（仙台北方））
○第三百二十二師團　（笠原嘉兵衛中將　碧谷堂（水沢東北））
○獨立混成第百十三旅團　（深堀遊亀中將　大河原（岩沼西南））
（亀川良夫少將　平）

◎第十二方面軍（田中静壹大將）
○第三十六軍　（上村利道中將　諸和）
第八十一師團　（百開　健中將　宇都宮）
第九十三師團　（山本三男中將　柏（松戸東北））
第二百一師團　（藤信吉郎少將　國立（立川東方））

0021

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二百二師團　（片倉　衷少將　高崎）
第二百九師團　（久米精一少將　津幡（金沢東北））
第二百十四師團　（山本　募中將　宇都宮）
騎兵第一師團　（細見惟雄中將　佐野）
騎兵第四師團　（名倉　栞中將　千葉）
海上機動第四旅團　（　）

◎第五十一軍　（爵園謙吾中將　高浜（土浦東北））
第四十四師團　（谷口春治中將　小川（高浜東方））
第百五十一師團　（曲銀義方中將　水戸）
第二百二十一師團　（永沢三郎中將　鹿島）
独立混成第百十五旅團　（相葉　健少將　鹿島南方）
独立混成第百十六旅團　（岩根清夫少將　鉾田）
独立騎兵第七旅團　（三田村逸彦大佐　小川北方）

◎第五十二軍　（重田德榮中將　酒々井（佐倉東方））
重衛第百師團　（山崎清次中將　成東）

0022

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

才百四十七師團　（石井潔三郎中將　鶴舞（茂原西南））
才百五十二師團　（能崎清次中將　椎芝村（銚子西北））
才二百三十四師團　（永野亀一郎中將　山倉村（八日市場北方））
獨立戰車才三旅團　（田畑与三郎大佐　要科（千葉東方））

◎才五十三軍
才八十四師團　（赤柴八重藏中將　伊勢原北方）
才百四十師團　（佐久間為人中將　小田原）
才三百十六師團　（物部長鉾中將　鎌倉）
獨立混成才百十七旅團　（柏　德中將　神戸（伊勢原西方））
獨立戰車才二旅團　（平塚敬吉少將　沼津）
　（佐伯勝夫大佐　厚木南方）

◎東京灣兵團
才三百五十四師團　（大場四平中將　船形（館山北方））
獨立混成才九十六旅團　（山口信一中將　丸村（館山東北））
獨立混成才百十四旅團　（恵藤才四郎少將　館山）
　（梁瀬真琴少將　横須賀）

◎東京防衛軍　（飯村穣中將　東京）

0023

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

警備第一旅團　（宮崎吉正少將　東京）
警備第二旅團　（矢ケ崎勘三少將　東京）
警備第三旅團　（原田　棟少將　東京）
○近衛第一師團　（森　健中將　東京）
○第百二十一師團　（矢崎勘十中將　大島）
○独立混成第六十六旅團　（中村三郎少將　新島）
○独立混成第六十七旅團　（木原義雄少將　八丈島）
○高射第一師團　（金岡　晴中將　東京）

◎第十三方面軍（司令官　寺中將）
○第五十師團　（小林信男中將　新潟）
第四十三師團　（鈴木貞次中將　気仙（浜松西北））
第二百二十四師團　（河村参郎中將　仙台）
（注）廣島に無用予定であつた部隊配備
第三百五十五師團　（武田　寿中將　遼東半島）

0024

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

注、編成に編成予定であつたが未配備

独立編成第九十七旅団（横岸　岡少将　豊橋）
独立編成第百十九旅団（伊東　脇少将　御前崎）
独立編成第百二十旅団（細治武雄少将　清水）

●第七十三師団（河田宋三郎中将　豊橋）
●第百五十五師団（稲村豊二郎中将　宇治山田）
●第二百二十九師団（石野芳男中将　金沢）
●独立混成第八旅団（酒山弘道中将　三方原）
●高射第二師団（入江莞爾中将　名古屋）

第二総軍

●第十五方面軍（内山英太郎中将）
●第五十五軍（原田熊吉中将　高知市東北方）
第十一師団（大野龍平中将　高知市東方）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百五十五師團　（岩永　汪中將　高知市東方）

第二百五師團　（唐川安夫中將　高知市東方）

第三百四十四師團　（樋口貴一郎中將　中村（高知縣幡多郡））

獨立混成第百二十一旅團　（横井忠道少將　徳島）

○第五十九軍　（谷　壽夫中將　廣島）

第二百三十師團　（中西貞喜中將　岡山）

第二百三十一師團　（村田孝生中將　山口）

獨立混成第百二十四旅團　（石井　信少將　小倉）

○第百四十四師團　（高野直潤中將　和歌山）

○第二百二十五師團　（落合鼎五中將　姫路）

○獨立混成第百二十三旅團　（金岡正忠少將　御坊）

○西部第三師團　（河合　譲中將　大阪）

◎第十六方面軍（朝鮮　李　宇將　二月末）

○第四十軍　（中沢三夫中將　伊集院）

0026

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第七十七師團　（中山政康中將　加治木）
第百四十六師團　（坪島文雄中將　所辺）
第二百六師團　（岩畑　秀中將　伊作）
第百三師團　（石田保義中將　川内）
独立混成第百二十五旅團　（倉橋　尚少將　指宿）

○第五十六軍
第百四十五師團　（七田一郎中將　飯塚）
第三百十二師團　（小原一明中將　芦屋）
第三百五十一師團　（多田　保中將　唐津）
独立戦車第四旅團　（藤村　誠中將　福岡南方）
戦闘要塞　（赤駒林一大佐　福丸）
第千々波半治少將　（千々波半治少將　唐津）

○第五十七軍
第八十六師團　（西原寛治中將　鹿部）
第百五十四師團　（青柳利太郎中將　志布志）
第百五十五師團　（二見秋三郎少將　泰　）
第百五十六師團　（福田敬七郎中將　宇佐）

0027

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

才二百十二師團　（樣井輝太郎少將　都　城）
獨立混成第九十八旅團（黑須源之助少將　高山南方）
獨立混成第百九旅團　（千田貞雄中將　福ケ島）
獨立戰車第百旅團　（高沢英輝大佐　本　庄）
獨立戰車第六旅團　（後田哲人大佐　鶴　島）
○第二十五師團　（加藤怜三中將　小　林）
○第五十七師團　（矢野政雄中將　福岡南方）
○第二百十六師團　（中野良次中將　熊　本）
○高射第百師團　（伊藤範治中將　小　倉）
○獨立混成第六十四旅團　（高田利貞少將　德之島）
○獨立混成第七旅團　（久世弥三吉少將　福江（五島））
○獨立混成第百十八旅團　（内山略道少將　佐　伯）
○獨立混成第百二十二旅團　（谷口元次郎中將　長　崎）
○獨立混成第百二十六旅團　（林　勇藏少將　天　草）
○壱岐島要塞　（長瀬武平中將　壱　島）

0028

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第五方面軍（樋口季一郎中將　札幌）

○第七師團　（熊谷行一中將　帶廣）

○第四十二師團　（佐野虎太中將　樺内）

註、第五方面軍は大本營直轄である。方面軍内・千島・樺太の兵団編隊は内地でない為省略した。

航空總軍（註、○印は總軍直轄）

○第一航空軍　（安田武雄中將　東京）

第十飛行師團　（遠藤敬利中將　東京）

第十一飛行師團　（北島熊男中將　東京）

○第六航空軍　（菅原道大中將　福岡）

第十二飛行師團　（土生秀治少將　小月）

○第一飛行師團　（佐藤正一中將　札幌）

註、第五方面軍の指揮下

0029

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

◎第五十一航空師團　（石川　愛中將　岐阜）

◎第五十二航空師團　（山中諦度中將　熊谷）

◎第五十五航空師團　（広田　豊中將　太田）

◎第二十戰闘飛行集團　（青木貳三中將　小牧）

◎第三十戰闘飛行集團　（三好康之少將　熊本）

注、航空総軍隷下部隊たる第二航空軍（原田宇一郎中將）は関東軍の指揮下にあり、又、第五航空軍（下山琢磨中將）は京城に位置して朝鮮方面の航空作戦に当つて居た。

以上の他、地上各軍には、任務敵情その他の条件に鑑み、

独立混成連隊、独立歩兵大隊、戦車連隊、独立戦車中隊、

独立機関銃大隊、独立迫射砲中隊、独立高射砲大（中）隊、野戦瓦斯

関砲中隊、特殊警備砲隊、

砲兵司令部、砲兵情報連隊、独立野（山）砲兵連（大）隊、野戦重

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

砲兵連（大）隊、独立野戦重砲兵連（大・中）隊、自走砲大隊、道
撃砲大隊、独立白砲大隊、
高射砲連隊、独立野戦高射砲大（中）隊、独立高射砲大（中）隊、
独立野戦瓦斯隊、
独立工兵連（大・中）隊、特殊工兵中隊、
海上挺進戦隊、海上挺進警備隊、
電信連隊、野戦電信中隊、独立無線中（小）隊、固定通信隊、超短
波通信中隊、独立通信作業隊、
手押軽便鉄道隊、
兵站地区隊本部、兵站勤務中隊、野戦勤務隊（本部）、独立輜重兵
中隊、
輸送司令部、自動車連隊、独立自動車大（中）隊、海上輸送大隊、
陸（水）上勤務隊、
要塞建築勤務中隊、築城勤務中隊、野戦建築隊、兵站病院、特殊看
護隊、　等

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

幾多複雑を重ねて、その戦闘序列に入らしめられ、或は、配属されて居た。尖して、之等諸部隊の若干は、軍直轄として運用され、爾他は、第一線師（旅）団に配属された。

師（旅）団の内容

次に、軍構成の主体たる師（旅）団等の内容について、先づ、一般師団について、その概概を述べるに、本土決戦の為の師団は、昭和十八年頃前に内地に在つたもの、満洲其他から転用されたもの　及　昭和十九年頃居新に本土で編制されたもの　とに分たれ、新に、本土で編成された師団は、又、昭和十九年迄に編成されたもの　と　昭和二十年になつてから第一～第五次兵備計画によつて編成せられたものとに分つことが出来、尖に、その内容を異にし複雑を極めた。

今茲にその代表的若干の師団につきその編組の内容を例証的に述べるならば次の如くである。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭和十八年編成せられた師団（4ID・7D）

近衛第一師団の例

師団司令部	
歩兵連隊	四
騎兵連隊	一
野砲兵連隊	一
工兵連隊	一
通信隊	一
輜重兵大隊	一

註、イ近衛第一師団は、昭和十八年五月近衛師団を母体とし近衛第二師団と共に編成せられたものである。

2 7Dは、右に比し、歩兵連隊は三ケで、騎兵連隊の代りに機関連隊を、野砲連隊に代るに山砲兵連隊を有した。又、輜重兵大隊を欠き、別に衛生隊一、野戦病院四、病馬廠一、防疫給水部一を有した。

0033

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

満洲から転用された師団（11D・25D・57D等）

オ十一師団の例

師団司令部	一
歩兵連隊	三
騎兵連隊	一
師団輜重連隊	一
山砲兵連隊	一
工兵連隊	一
師団通信隊	一
輜重兵連隊	一
師団側衛隊	一
〃 兵器勤務隊	一
〃 衛生隊	一
〃 野戦病院	一
〃 病馬廠	一

0034

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

〃　野戦給水部　一

注・1 35Dは、右に比し、歩兵団一を有し、輜重連隊を欠いて居た。
2 57Dは、騎兵の代りに捜索隊を有し、歩兵団の編組があつた。
又、衛生隊を欠き、野戦病院は三ケであつた。

昭和十九年中期―昭和十九年末迄の間に編成せられた師団の標準編組（56D・43D・44D・72D・73D・77D・81D・86D）

師団司令部
歩兵連隊三ケ
　大隊三ケ
　　中隊三ケ―三小隊
　　機関銃中隊
　　大隊砲小隊
　歩兵砲中隊
師団速射砲隊　一
　速射砲中隊
野砲兵連隊（乙）　一
工兵連隊　一
　通信中隊
師団通信隊　一
　騎馬小隊

0035

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

- 師團輜重兵連隊 一
- 師團衛生隊 一
- 野戰病院 一―三

昭和二十年に入つてから編成せられた師團

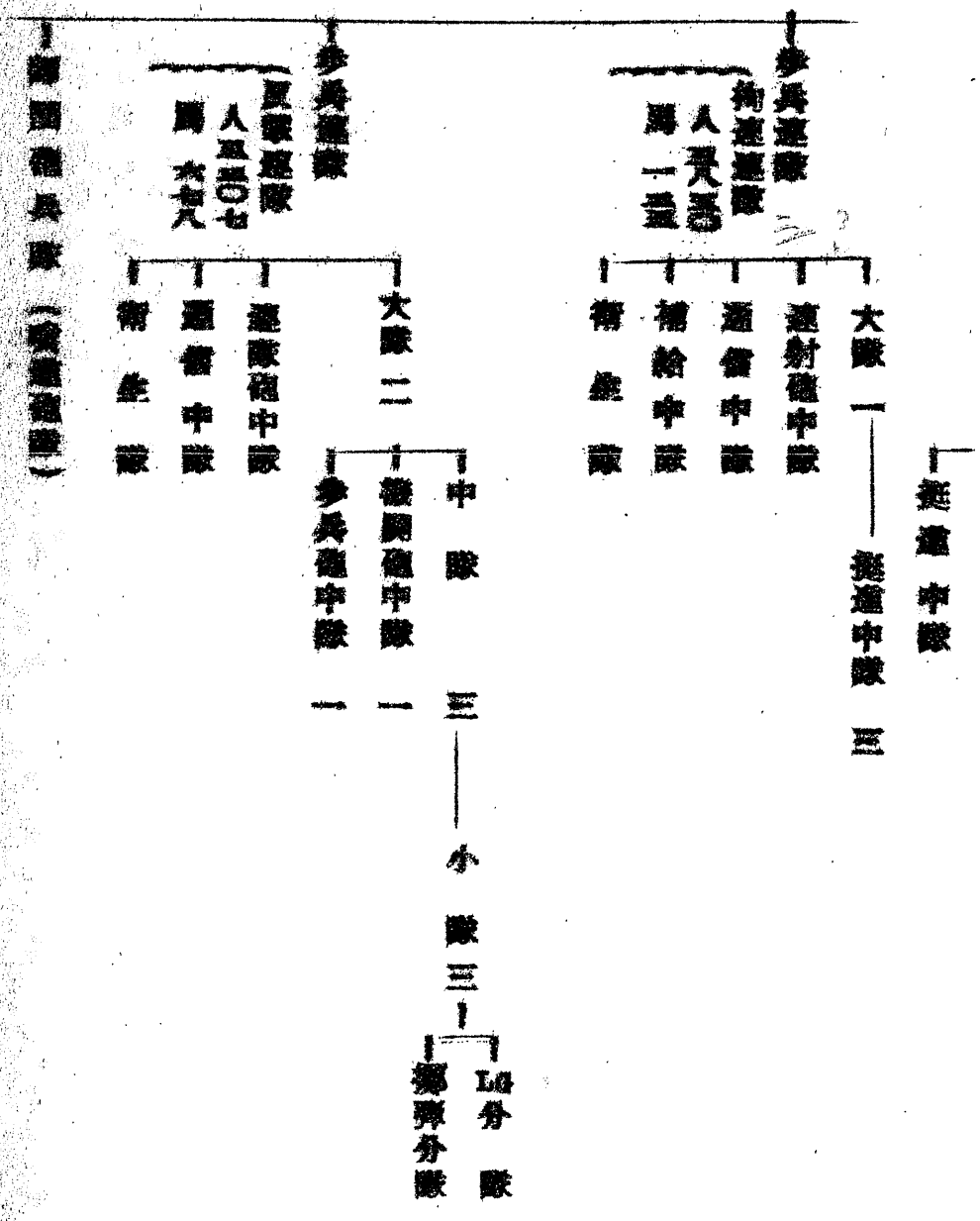
其一、沿岸配備師團の標準編組

才一次兵備計畫（三月下旬）によるもの（140D・142D・147D・151D―157D）

才三次兵備計畫（三月下旬以降）によるもの（308D・309D・312D・316D・321D・322D・344D・351D・354D・355D）

- 師團司令部
  - 大隊 二
    - 歩兵中隊
    - 中隊 三
      - 小隊 三
        - MG分隊 二
        - LG分隊 三
        - 擲彈分隊 一
      - 小隊 一
        - 分隊 二

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

師団直射砲隊
師団通信隊
師団兵器勤務隊

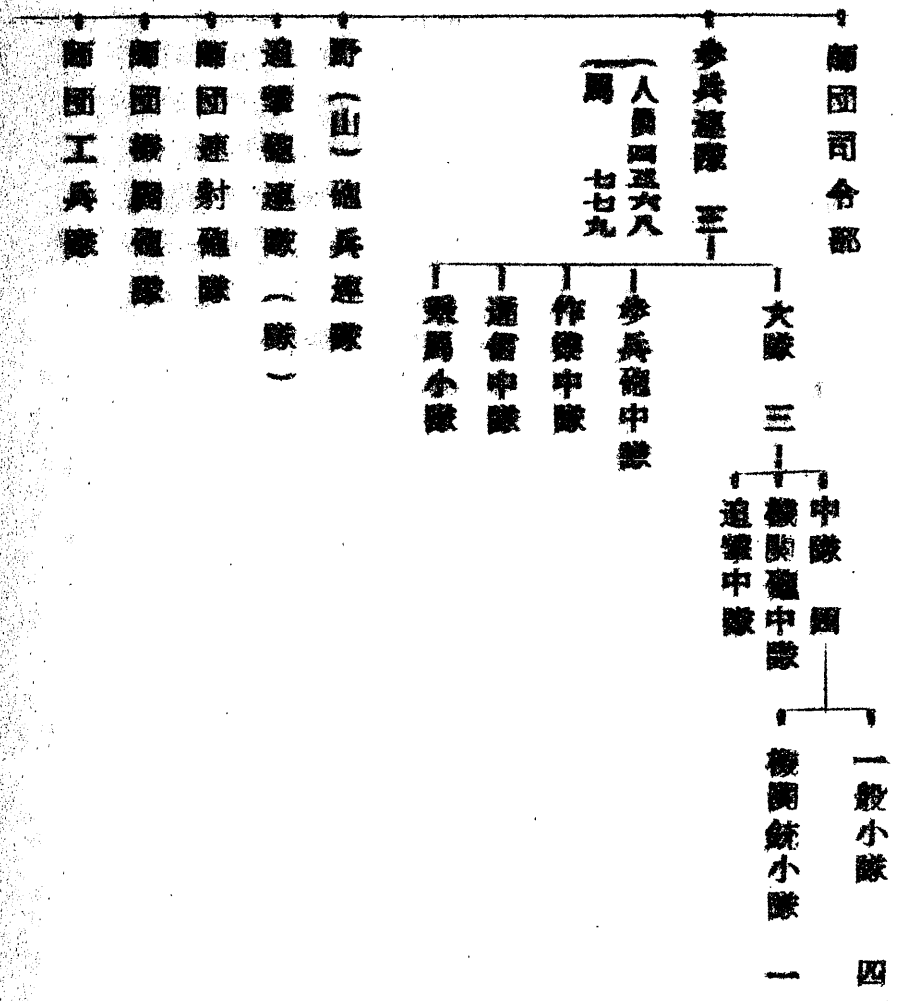
註、右表は第一次兵備計畫によるものである。
第三次兵備による師団は、概ね、歩兵連隊を三ケとし、
又、工兵隊を備えた。

第二、編制師団の標準編組

第二次兵備計畫（一四年上旬）によるもの（201D 202D 205D 206D 209D 212D 214D 216D）

第三次兵備計畫（二五年度末）によるもの（221D 222D 224D 226D 229D 251D 254D）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp



0039

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

師団通信隊
師団輜重隊
兵器勤務隊
制毒隊
野戰病院　一―三
衛生隊
病馬廠

注、第三次兵備のものに於ては、右の中、概して野（山）砲連隊、連射砲隊、機関砲隊を欠いて居た。

本土に於ける独立混成旅団の編成概要

司令部

独立歩兵大隊　三―六

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成旅団砲兵隊　一
〃　工兵隊　一
〃　通信隊　一
〃　連射砲隊　一

但し混成旅団は、任務其他により、一般に内容に差異が大であつた。

八丈島に位置した混成第六十七旅団の如きは、その最たるもので、該旅団は、本来有力なる編組を持つて居た他に、軍隊区分により、多くの部隊を配属せられ、後に師団以上の戦力を有して居た。

註、右戦力の概要は次の如くである。

独立混成連隊一、独立歩兵大隊四、支隊一
独立騎関砲大隊一、特設騎関砲隊二、野戦騎関砲中隊一
独立連射砲大、中隊各一、独立野戦重砲兵大隊一、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

憲兵中隊一、
臨時野戦高射砲中隊一
独立工兵大隊一
其他後方補給の為めの部隊

警備旅団は、京浜地区警備力強化の為、二月六日編成せられたもので、その組成の概要は次の如くであつた。

警備旅団司令部
警備歩兵大隊　六
警備旅団通信隊　一

戦車師団の編制の概要

戦車才一師団の例

戦車才一師団司令部

戦車才一旅団司令部

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

戦車連隊　三
機動歩兵連隊　一
戦車師団連射砲隊　一
機動砲兵連隊　一
戦車師団防空隊　一
〃　工兵隊　一
〃　警備隊　一
〃　輜重隊　一

注・イ戦車オ一師団は満洲から転用されたものである。
ロ戦車オ四師団は、旅団司令部・機動歩砲兵連隊・連射砲隊・防空隊等を欠いて居た。

独立戦車旅団の編成表

戦車旅団司令部

0043

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

戦車連隊	二
旅団騎兵隊	一
〃 警備隊	一
〃 輜重隊	一

註、独立戦車才八旅団のみは、旅団歩兵隊・砲兵隊・工兵隊・通信隊を別し騎兵隊を欠いた。

高射砲師団の編組は、防空すべき要地の大小其他の条件により区々であつたが、最も大きな編制をとつて居た高射才一師団の一例を挙げるならば次の通りであつた。

師団司令部	
高射砲隊司令部	一
高射砲連隊	九
野戦高射砲大隊	二

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立高射砲大隊	九
〃　中隊	四
飛行連隊	一
独立飛行大隊	一
機関砲大隊	二
独立機関砲大隊	一
〃　中隊	七
要塞気球隊	一

注、最も小さな編制をとつたのは、高射第三師団で、司令部の他、高射砲連隊三、独立高射砲大隊四、全中隊二、独立機関砲大隊一、全中隊四　であつた。第四、第二師団は第一と第三の中間の程度であつた。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

南上機動第四旅団の編制

旅団司令部
機動大隊　三
旅団機関砲隊　一
〃　戦車隊　一
〃　工兵隊　一
〃　通信隊　一
〃　衛生隊　一
〃　輸送隊　一

本土決戦の為の内地に於ける航空部隊の組織

注、（　）内の人名は指揮官、地名は司令部の所在地

航空総軍
第一航空軍（第四航空軍中枢　東京）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一飛行師團　（佐藤正一中將　札幌）
第二十飛行團　（窪　蘭）
第十飛行師團　（近藤兼利中將　東京）
第十二飛行團　（高　嶽）
第二十六飛行團　（那須野）
第二十戰鬪飛行集團　（青木武三中將　小牧）
第十六飛行團
第六航空軍　菅原道大中將　福岡）
第十一飛行師團　（北島熊男中將　大阪）
第二十三飛行團
第十二飛行師團　（土生秀治少將　小月）
第三十戰鬪飛行集團　（三好康之少將　熊本）
第十六飛行團　（下　鎌）
第十七飛行團

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二十一飛行團　（柏　原）
第二十七飛行團　（兒　玉）
第百飛行團　（高　松）
第五十一航空師團　（福　川　愛中將　岐　阜）
第五十二航空師團　（山中繁茂中將　熊　谷）
第五十三航空師團　（広島　豊中將　太　田）

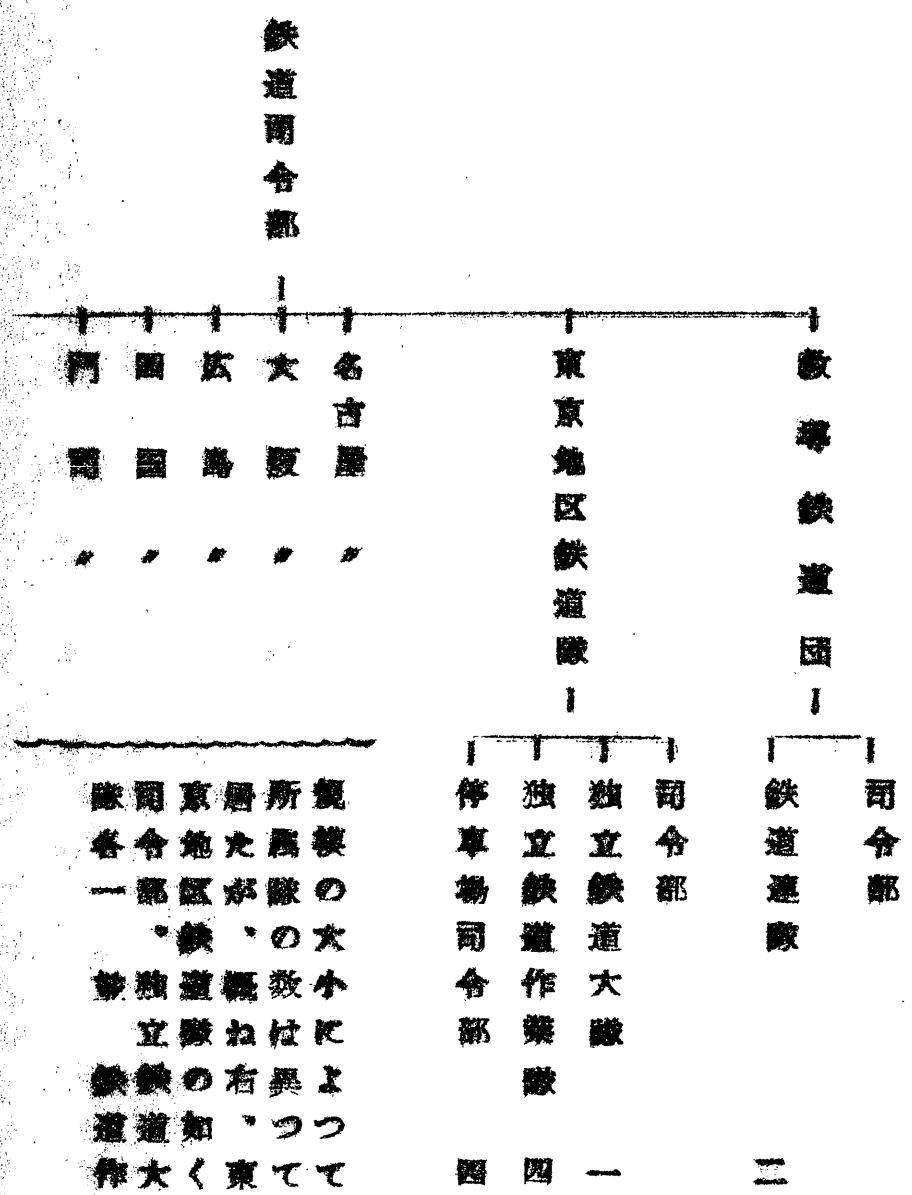
注、航空艦隊司令官の隷下には、右の他、左の通り、朝鮮に第五航空軍があつた。

第五航空軍　（下山琢磨中將　京　城）
第一飛行團　（晋　州）
第二飛行團　（大　邱）
第八飛行團　（蔚　山）
独立第百五教育飛行團（南　　）

0048

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

内地鉄道隊編制の概要



規模の大小によつて所属隊の数は異つて居たが、概ね右、東京地区鉄道隊の如く司令部、独立鉄道大隊各一、独立鉄道作業隊四

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

内地に於ける船舶部隊編制の概要

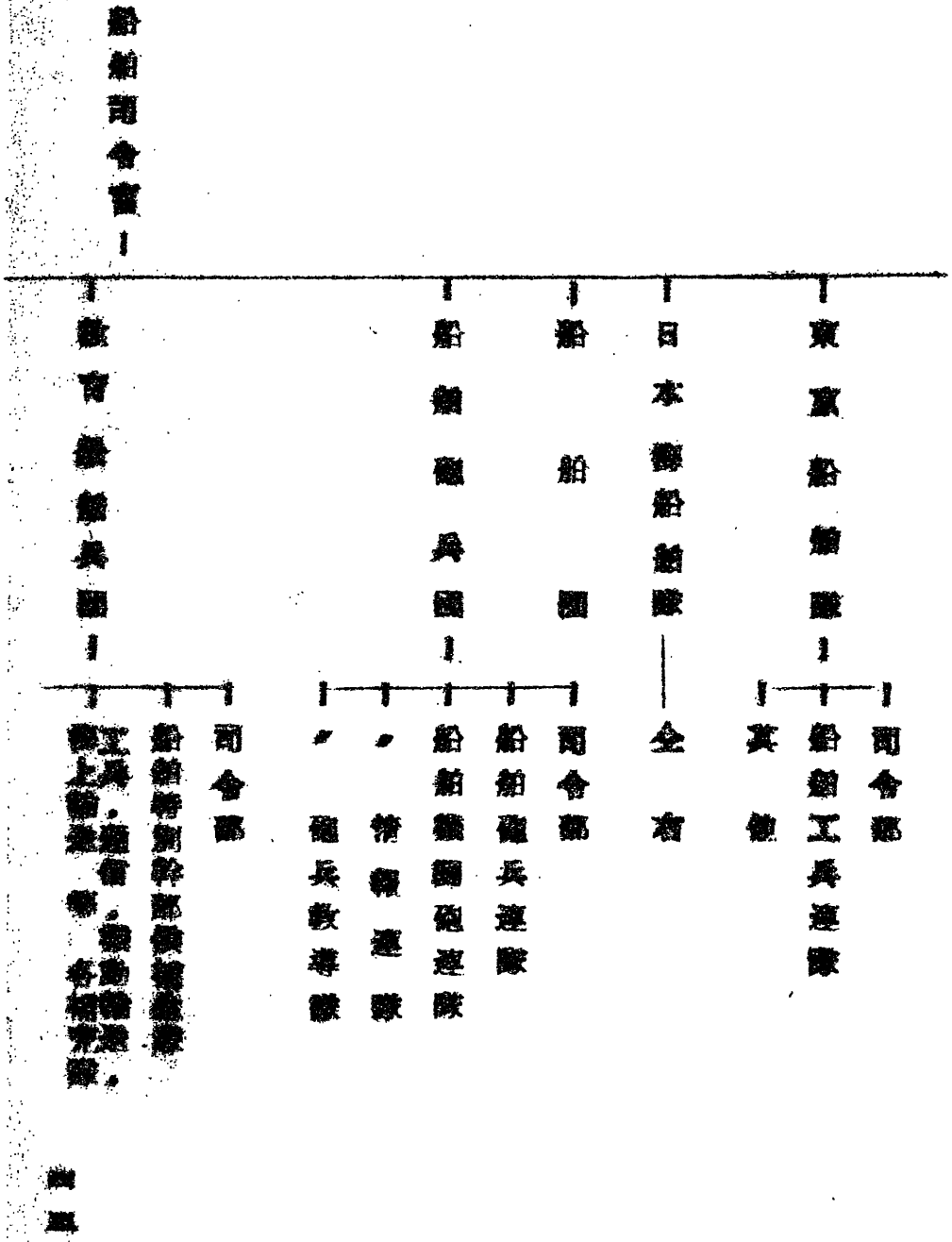
- 新潟 〃
- 仙台 〃
- 札幌 〃
- 博文 〃

東部一乃至第平と称し、車船司令部、運輸部、平を有し、門司、門司地区のみは〃特に鉄道連隊一を有した〃

- 船舶司令部
  - 輸送司令部
  - 全文部
  - 船舶團
  - 船舶工兵連隊
  - 場警隊
  - 船舶通信大隊
  - 其他
- 船舶輸送隊（二）
  - 第一…門司
  - 第五…小倉

0050

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

- 陸軍船舶練習部
  - 船舶幹部候補生隊
  - 潜水輸送教育隊
- 船舶工兵連隊
- 野戦船舶本廠
- 船舶補充隊
- 其他

- 気象及暗号の教育隊
- 其他

注、東京及日本海船舶隊は、外地の北鮮船舶隊と共に軍隊区分による臨時的編組である。

0052

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

本土決戦に対する諸準備は以上の如く予定せられ、且つ逐次実施に移されるとともに、その兵団配備は、七・八月に亜り、一応態勢を整えることが出来た。

然し乍ら、空襲の激化に伴う生産力の低下、交通輸送の逼迫に加えて、一方、人的素質の弱化と訓練の不十分とにより、物心両面の作戦準備は、一部を除き概して憂うべきものがあつた。

即ち、作戦部隊の装備は、才一次兵備兵団（昭和二十年三月）に於ても火砲重火器の一部を欠き、特に周西自動車の欠数が多く、才二次兵備兵団（昭和二十年四月）の装備充足は、優先的に措置された九州四国方面に於ても七〇％程度で、関東方面亦略〻同程度であつたが、遠射砲及迫撃砲は殆んど之を欠き、その他の方面の如きは、一般に五〇％を出でなかつた。

更に才三時兵備兵団（昭和二十年五月下旬―六月）に亜つては、特に優先装備せられた九州方面に於ても、五〇％内外の充足に過ぎず、戦中、重軽火器、遠撃砲、曲射砲等の欠数が著しく、其他の地区に亜つ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

では、僅かに一部の装備を進し得たのに過ぎなかつた。

而し乍等の兵団の装備整是は、九州面屬方面に於ては、極め此年の十月頃に整整し得る見込でありたが、關東方面は昭和二十一年の春頃、南伸の地区は更に遅延することが予想された。

又、陣地の構築は、計畫に対し、九州・國國・關東地方沿岸の重要正面は、六〇乃至八〇%に達して居たが、その他に於ては、五〇%内外のものが多かつた。

測線は、後方に集結された決戦兵団を除き、廣大なる陣地構築作業に忙殺せられ、殆んど、実施の余裕がない状態であつた。

最後に、最も重要な後方準備は、計畫に対し、九州方面は弾薬一〇〇%、燃料九四%、糧秣一六%の集積を終つて居たが、決戦時集中する兵力に必要なる集積には大なる懸念があつた。

關東方面に於ては、糧秣は五〇%集積し得て居たが、弾薬資材の集積は、九州優先により、僅かに一部が実施せられて居るに過ぎなかつた。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp